

漢文句法1 再読文字【問題】

漢字	読み	訳
未	未 ^{いま} ダ―ズ	まだ―ない
将・且	将 ^{まさ} ニ―ントす	(今にも)―しようとする
当・応	当 ^{まさ} ニ―ベシ	・当然―すべきだ ・きつと―だろう
須	須 ^{すべか} ラク―ベシ	ぜひ―しなければならない
宜	宜 ^{よろ} シク―ベシ	―するのがよい
盍	盍 ^{なん} ゾ―ザル	どうして―しないのか (いやすればよい・すべきだ)
猶・由	猶 ^{なほ} ホ―ノ(ガ)ことシ ・名詞 +ノ ・連体形+ガ	ちようど―のようだ ―と同じだ

【練習】□に送り仮名を入れ、傍線部を書き下し、口語訳せよ。(■は置き字)

1 養^{ハレテ} 在^リ 深^{ヘイニ} 閨^ニ 人^ニ 未^レ 識^{シラ} □ 人 世間の人々
書き下し文

口語訳

2 孤^か 燈^か 挑^ゲ 尽^{クシテ} 未^レ 成^{ナサ} 眠^{リテ} □ 成^ニ 眠^セ 眠る
(書)

3 身^{ツカラ} 七^シ 十^シ 余^シ 戦^シ、未^ニ 嘗^{カフテ} 敗^セ 北^ニ。 嘗^ニ 此^ニ 来^ニ まで
(訳)

(書)

1 (その女性は)家の奥深くで大切に育てられ――。(白居易・長恨歌)
2 (物思いに耽っていると)灯火を燃やし尽くしても――。(白居易・長恨歌)
3 自ら七十回あまり戦い――。(史記・垓下の戦)

4 **未**聞^レ好^ニ学^ヲ者^{ナリ}也^一。 学 学問 也——である。 訳さなくてもよい。

(書)

(訳)

5 河東^{カとうノ}薛存義^{せつそんぎ}将^カ行^カ。 行 旅立つ

(書)

(訳)

6 将^ラ限^二其^{そノ}食^ヲ。 限 制限する 食 食料

(書)

(訳)

7 西伯^{デテ}将^{カリセ}出^一獵^一、ト^{ぼくス}之^{これヲ}。 出 出かける

(書)

(訳)

8 今^{たちまち}人^{レバ}乍^{じゆ}見^レ孺^{しノ}子^一将^カ入^{いラ}於^ニ井^一、 皆^リ有^{ぢゆつてき}怵^{そくいん}惕^の惻^一隱^一乃^一心^一。

(書)

(訳)

9 举^{ゲテ}足^ヲ将^{ウタ}搏^一其^{そノ}輪^ヲ。 搏 攻撃する 輪 車輪

(書)

(訳)

4 〈論語〉

5 河東の薛存義が——。 〈柳宗元・送薛存義序〉

6 〈列子・朝三暮四〉

7 西伯は——、これを占った。 〈史記・太公望〉

8 いま突然、幼児が——のを見るならば、皆驚き哀れむ心が生じる。 〈孟子・四端〉

9 かまきりは前足を上げて——。 〈莊子・螳螂之斧〉

10 引^キ酒^テ且^ヲ飲^マ。

(書)

(訳)

11 趙^{てう}且[□]伐^{うた}燕^{□□えん}。

趙・燕 国名 伐 攻める

(書)

(訳)

12 鄭^{てい}人^{ひと}有^ニ且^リ買^{□ハ□□くつ}履^ヲ者^一。

(書)

(訳)

13 擊^{うち}沛^{はい}公^ヲ於^ぎ坐^ニ殺^セ之^{これヲ}。不^し者^{からず}、若^{なんぢガ}属^{ぞく}皆[□]且[□]為^{□ナラ□□ト}所^{とり}虜^{コトスル}。

為所虜 捕虜にされる

(書)

(訳)

14 速^{すみやか}斬^{カニ}魏^{ぐゐ}齊^{せい}頭^{かうべ}来^{タレ}。不^{ずんば}然^{しか}、且[□]屠^{ほふ}大^{□□}梁^{たいりやう}。

屠 皆殺しにする 大梁 地名。魏国の都

(書)

(訳)

15 及^{ビテ}時^ニ当[□]勉^ニ励^ス。歳^ハ月^ハ不^レ待^タ人^ヲ 勉^ニ励^ス 努^ニめ^ス励^ムむ

(書)

(訳)

16 吾^{われ}当[□]王^{タル}関^ニ中^一。 吾 私

(書)

(訳)

10 酒を引き寄せて――。〈戦国策・蛇足〉

11 〈戦国策・漁父之利〉
12 鄭の国の人で、――。〈韓非子・買履忘度〉

13 沛公（劉邦）を宴席で襲つて殺せ。そうしなければ、お前たちは皆――。〈史記・鴻門之会〉

14 早く魏斉の首を切つて持つて来い。そうしなければ、――。〈十八史略〉

15 適当な時期になったならば、――。歳月は人を待っていてはくれない。〈陶潜・雜詩〉

16 〈私が最初に秦を破つて関中に入つたのだから、――〉。〈史記・法三章耳〉

17 太史占^レ之曰、「**当**以^レ人^一。」
以人 人を生けにえとして

（書）

（訳）

18 「王**当**敵^レ血而^レ定^レ從^一。… 定從 同盟を誓う

（書）

（訳）

19 然^レ此^一**当**由^レ貧困^一。

（書）

（訳）

20 不^レ過^一三^二十^一年^一**当**王^二天^一下^一。

（書）

（訳）

21 孫子度^二其^一行^一、暮^一**当**至^二馬^一陵^一。

馬陵 地名

（書）

（訳）

22 「**当**有^二聖^一人^一適^レ周^一。周以^レ興^一。」

有 現れる 適 行く 周 国名

（書）

（訳）

17 太史がこの干ばつを占って言うには、――。〈十八史略〉

18 （毛遂が楚王に言うには）「王は――。〈十八史略〉

19 それにしてもこれ（お前が盗みを働こうとしたの）は、――。〈後漢書・梁上君子〉

20 （占ってみたところ、その人物は）三十年経たない内に――。〈十八史略〉

21 孫子（孫臏）がその軍の行程を計算したところ、日暮れには――。〈史記〉

22 （昔の予言によると）「――。周の国は、その聖人のおかげで栄えるだろう。」と。〈史記・太公望〉

23 上^レ曰、「数十歳^ノ後、[□]当^レ有^二能禦^レ之者^一。…能—できる

（書）

（訳）

24 寄^レ言全盛紅顔子^ノ [□]応^レ憐^二半死白頭翁^一 ^{をう}

（書）

（訳）

25 郡遣^二督郵至^レ県^一。吏曰、「[□]応^二束帶^一」^{そくたいシテ}

見^レ之^一。東^二束^一礼装 見お目にかかる 之督郵を指す

（書）

（訳）

26 「契丹^{きつたん}兵、[□]応^レ有^二優賜^一。」 優賜 十分な恩賞

（書）

（訳）

27 君自^{より}故郷^{タル}来^タ [□]応^レ知^二故郷事^一 知 知っている

（書）

（訳）

28 幽人^{いうじん} [□]応^レ未^レ眠^一 ^ラ 眠 眠っている

（書）

（訳）

23 皇帝が言うには、「数十年後（に）異民族が攻めて来ても）、——。
〈十八史略〉

24 言っておくことがある、今が人生盛りの若者よ。——、半分死にかけたような白髪頭の老人を。
〈劉希夷・代悲白頭翁〉

25 郡が巡察官を派遣して彭沢県に行かせた。県の役人が（県の長官陶潜に）言うには、「（巡察官に失礼の無い様、）——。」と。〈晋書・陶潜伝〉

26 （契丹の国主が要求するには）「我が契丹の兵は苦勞したのだから、——。」と。〈十八史略〉

27 君は私の故郷からやってきた。——。
〈王維・雜詩〉

28 隠者のように暮らす君は、——。
〈韋応物・秋夜寄丘二十二員外〉

29 当時父母念 今日爾なんぢ 応□知ル 爾お前 知分かる・理解する

(書)

(訳)

30 皆非あらズ 統御才ノニ 宜□□ 授さづク 他職ヲ 一

(書)

(訳)

31 周瑜上しうゆじやうそシテ 疏ニ 於權□□ 曰いハク 「… 宜□□ 徙うつシ 備置ヲク 吳ニ 權不徙ハ」

備人名。劉備(りゆうび) 吳 国名

(書)

(訳)

32 事已迫矣すでニレリ 宜□□ 早定クム 計ヲ 計 計略

(書)

(訳)

33 曰いハク 「途中ニシテ 宜□□ 密ひそカニ 觀ル」

(書)

(訳)

34 惟仁者たダノミ 宜□□ 在ル 高位ニ 一

(書)

(訳)

29 あの当時の父母の思いを、――。
〈白居易・示劉叟〉

30 この者たちは皆、部下を統率で
きる才能はありません。――。〈十
八史略〉

31 周瑜が孫權に進言して言うには、
「――」。と。しかし孫權は従わな
かった。〈十八史略〉

32 事態は差し迫っている。――。
〈十八史略〉

33 皇帝が言うには、「この包みの中
身は、お前が帰る途中で――」。
と。〈十八史略〉

34 ただ仁を備えた者だけが、――。
〈孟子〉

35 「京兆尹張敞、^{けいてうノ むん ちやうしやうハ} 憚之^{うんノ}党友^{ナリ}。不^レ宜^{□□}処^レ位^{□□}。」^{をルニ} 処位 高い地位につく

(書)

(訳)

36 敵人之相不可測也。^{てきじんの ざル ベカラル なリ} 不^{ザト}宜^{□□}近^{□□}之^{□□}。^{ジク これヲ} 之 此の者

(書)

(訳)

37 暫伴二月将影行樂須^{しばらく ともなヒテ トとヲ}及^{□□}春^{□□}。^ニ 及春 春に行なう

(書)

(訳)

38 上^{しやう}歎^{たん}曰^{ジテ}、「宰相^{いハク}須^{さいしやうハ}用^{□□}読^{□□}書^{□□}人^{□□}。」^{ノヲ} 読書人 知識人

(書)

(訳)

39 天下^ハ須^{□□}用^{□□}長^ニ槍^{サウ}大^{□□}劍^{□□}。^ヲ 槍 やり。

(書)

(訳)

40 子曰^し、「過^{いハク}猶^{ギタルハ}不^{□□}及^{□□}。」^{ザル□□} 及 足りる

(書)

(訳)

41 人之有^ノ是^ニ四端^{コノ}也^{□□}、猶^{□□}其有^{□□}四体^{□□}也。^{なり}

其 人を指す 四体 手足

(書)

(訳)

35 「京兆(首都地域)の長官張敞は、(処刑された)憚の仲間です——。」と。(十八史略)

36 この敵の人物の人相を見ると、測り知れない大人物である。——。」と。(十八史略)

37 しばらくは月と自分の影を友として、楽しいことは——。」と。李白・月下独酌

38 皇帝がため息をついて言うには、「宰相の職には、——。」と。(十八史略)

39 天下を統治するには、——。」と。(十八史略)

40 孔子先生が言うには、「適当な程度を超えてしまうのは、——。」と。(論語・先進)

41 人間がこの四つのきざしを有するのは、——。」と。(孟子・四端)

42 曰、^{ハク}「孤之有^ニ孔明^ハ、[□]猶[□]魚之有^ニ水也^{。□}」

(書)

(訳)

43 告子曰、^{こくし いハク}「性^ハ猶[□]湍水[□]也^{。□}」
湍水 流れの急な川

(書)

(訳)

44 吾^{われ}今日見^{ルニ}老子^ヲ、其^{それ}猶[□]龍乎[□]。
乎 詠嘆。——だなあ。

(書)

(訳)

45 今之樂^{の がく}、由[□]古[□]之樂[□]也^{。□}。

(書)

(訳)

46 後之視^{のちの みルコト}今^ヲ、亦^{また}由[□]今之視^{の ル □}昔^ヲ。

(書)

(訳)

47 民^{たみノ}歸^{くみスルコト}之^{これニ}、由[□]水之就^{の つキテひくキニはい}下^{タル □}沛然[□]。

就 向かう・目指す 沛然 勢いよく流れるさま

(書)

(訳)

48 由[□]射^{ル □}於[□]百歩之外^{の ニ なり}也^{。□}。

百歩之外 百歩離れた遠く

(書)

(訳)

42 劉備が言うには、「私に孔明が
いてくれるのは、——。」と。〈十
八史略〉

43 告子が言うには、「人間の本性
とは、——。」〈孟子〉

44 私は今日老子に会ったが、その
様子は——。〈史記〉

45 今の音楽は、—— 〈孟子〉

46 後世の人が今を振り返るのは、
やはり——。〈蘭亭序〉

47 民衆がそういう君主になびき
従うのは、——。〈孟子〉

48 (智と聖の力とは、弓に例える
と)——。〈孟子〉

49 「^{もつテ}以^ヲ齊王^{タルハ}、[□]由[□]反[□]手也^{ヲなり}。[□]反手 手を裏返す。簡単なことの例え

(書)

(訳)

50 子曰、^{しいハク}「[□]盍[□]各[□]言^ハ爾志^{なんぢノこころざしヲ}。」[□]各それぞれ 爾志あなた達の抱負

(

(訳)

51 或^{あるヒト}謂^{いヒテ}経曰、^{けいニ}「[□]盍[□]以[□]疾^{もつテやまひヲ}辞^{じセ}。」[□]以——という理由で 辞 辞退する

(書)

(訳)

52 或^{あるヒト}曰、^{いハク}「^{あだ}寇至^ル。」[□]盍[□]去^ラ諸^{これヲ}。[□]諸 〓〓

(書)

(訳)

53 [□]盍[□]亦^{また}反^{かヘラ}其本^{そノもとニ}矣^一。[□]亦 (古代の聖王と)同様に 反 戻る 本 根本

(書)

(訳)

54 子^し盍[□]為^{ためニ}我言^{わガハ}之^{ハこれヲ}。[□]子 あなた

(書)

(訳)

49 「齊のような大国が諸国の王者となるのは、——。」と。〈孟子〉

50 孔子先生が言うには、「——。」と。〈論語〉

51 ある人が郝経に話しかけて言うには、「——。」と。〈十八史略〉

52 ある人が言うには、「敵が攻めてきた。——。」と。〈孟子〉

53 (孟子が王に勧めて言うには、)——。〈孟子〉

54 〈孟子〉